

【農業水利施設の魅力を知ってほしい (No.16) ; 希少な生物が生息する用水路を大切にしよう (2024年8月)】

『「スイゲンゼニタナゴ」、コイ目、コイ科、学名 *Rhodeus atremius suigensis*、絶滅危惧 I A 類 (環境省第4次レッドリスト)。山陽地方の一部にのみ局在する。主に支流や農業用水路で見られ、それぞれの生息地は分断される傾向にある。正確な個体数及びその動向は不明。(環境省 HP (<https://www.env.go.jp/nature/kisho/hogozoushoku/suigenzenitanago.html>) より)』

密漁等のリスクを回避することなどから、スイゲンゼニタナゴの、具体的な生息地が公になることは少ない、絶滅危惧種の生息地。それが公になっている数少ない事例として、広島県福山市の久松用水がある。今回はそんな久松用水を紹介したいと思う。なお文中の地図は、地理院タイルに写真位置番号等を追記して掲載したものである。



図1 久松用水

1. 七社頭首工・丸川分水工から蓮池

久松用水は広島県東部を流れる芦田川から七社頭首工（写真1-A）で取水する。しばらく芦田川右岸を流下し、分水工で葦陽用水と分かれたのち芦田川を潜り左岸側に至るとほどなく丸川分水工（写真1-B、C）がある。ここで上井出川（図1赤線）、蓮池川（図1水色線）、下井出川（図1緑線）と三方に分かれる。この丸川分水工にスイゲンゼニタナゴ（写真1-D）に関する看板がある。広島県では芦田川水系でのみ生息が確認される希少種のように、福山市ホームページ内『芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会（<https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/kankyo/282665.html>）』によれば、スイゲンゼニタナゴの生息環境の維持するためには、水路の泥上げ、草刈り、清掃、パトロール、モニタリングが必要とされている。スイゲンゼニタナゴは産卵母体として二枚貝が必要とのことで、水路床としては二枚貝が生息できる環境である必要があるが、久松用水は水路床が砂地である場所が多く見受けられたことから、水路の維持管理等がしっかり継続されることでスイゲンゼニタナゴもしっかり生息しつづけてほしいと思った。



写真1 久松用水その1

2. 丸川分水工から蓮池

丸川分水工からは蓮池川を下っていく。写真2-Eのようなやや水路幅が広く、水路床に水草が見えるような水路沿いを歩いていくと、さらに水路幅が広がり蓮池（写真2-F、G）に至る。蓮池は写真2-Gに3方向に分かれる分水工があるように、水利システム的には蓮池分水工とも呼べる場所で、おそらく沈砂池の機能もあるだろう。地元からはどんどん池と呼ばれているらしい。蓮池は福山城のすぐ北に位置し、江戸時代、福山藩初代藩主の水野勝成によって整備された福山上水の水源として城下町に配水していた。

蓮池からは御手洗川（最も北側を流下する川（図1青線）；写真2-H）に沿って下る。



写真2 久松用水その2

3. 御手洗川（蓮池から蓮池川合流点）

御手洗川沿いを歩くと福山八幡宮、良神社沿いに御手洗川は流下する（写真3-I、J）。大変雰囲気の良い川である。西深津町で、丸川分水工で分水した上井出川の余水吐から流下する水路との立体交差がある（写真3-K）。この上井出川の余水吐からの水路は、蓮池川と合流する（写真3-L）。



写真3 久松用水その3

4. 御手洗川（西深津町から王子町を経て東深津町）

西深津町に入ると、御手洗川（写真4-M、N）の流下方向は東から南へと変え、王子町方向へと流下する。平行するように蓮池川も南下する。御手洗川は用水路で蓮池川は排水路といった感じである。王子町で国道2号線と交差するあたりで、蓮池川は福山港方面と手城町方向の受益水田への用水路に分水（写真4-O）する。御手洗川は北東方向に向きを変え、東深津町（写真4-P）方向に向かう。東深津町から東に向かい南蔵王町に入る。特に末端で丘を大きく南に迂回して流下する様は、微傾斜でできるだけ遠方の受益まで水を届けようとする設計思想が見えるようである。今回はここで久松用水の紹介を終わる。

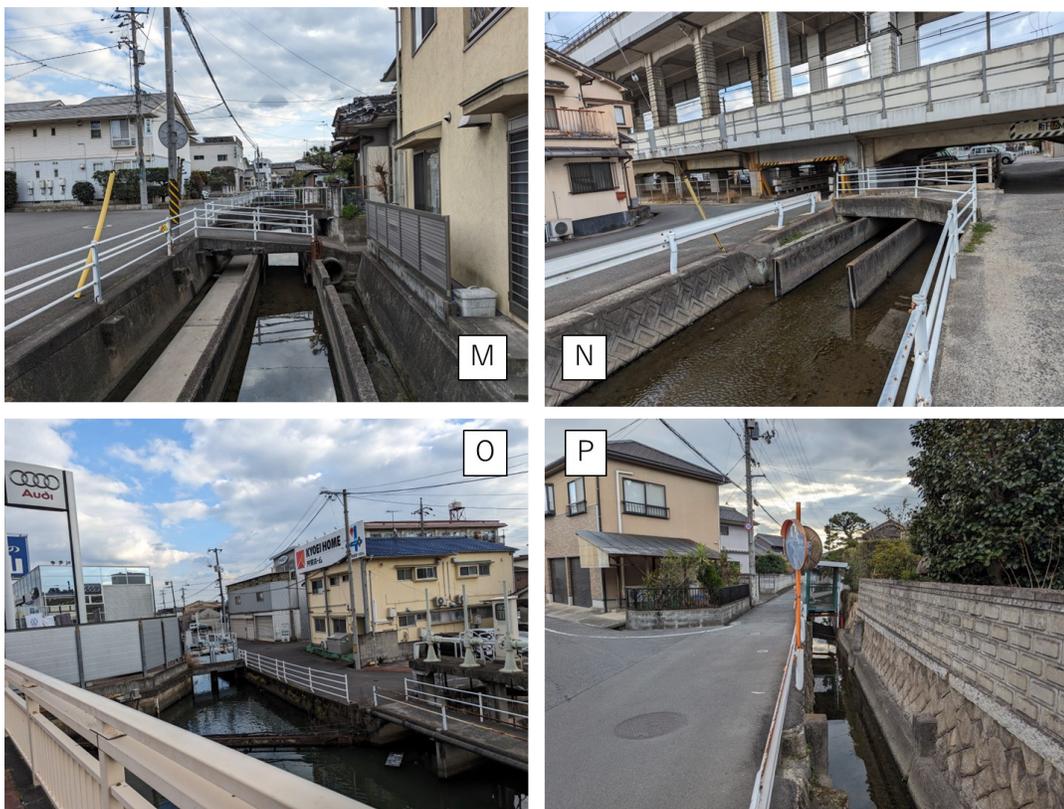


写真4 久松用水その4

〈アクセス〉七社頭首工へは、福山駅から中国バス目崎車庫行きに乗車し尾部バス停から芦田川方向に徒歩で500mほどである。七社頭首工から丸川分水工までは、水路沿いに歩いて6kmほどの距離であるが、芦田川の橋の位置関係から久松用水が芦田川を潜る場所より北にある橋で芦田川を越えることになる。丸川分水工はJR福塩線備後本庄駅から400mほどの場所があり、丸川分水工から東深津町まで今回紹介したコースを歩くと、およそ6.5kmの距離である。東深津町と南蔵王町の境界あたりまで水路を辿れば、近くに宮の端東バス停があり、そこから中国バスで福山駅までアクセスできる。

【余談】金名の郷頭

福山市新市町には、金名の郷頭という1800年ころに整備された、芦田川支流金名川の水量調整用のダムがある。近世以前の土木・産業遺産（<https://www.kinsei-izen.com/>）によれば、「堤体安定のため「曲線重力」の形を採用（福山藩の砂留の一部にも同様の工夫が見られる）／堤体中央に空けられた大きな水抜き穴の天井部には石劔橋に似た構造を採用／全体に非常にユニークで、国内唯一の施設」とある。金名の郷頭へはJR福塩線府中駅から中国バス金丸車庫前行きに乗車し、常城バス停からは300mほどの場所にある。



写真5 金名の郷頭